

住宅火災の死者ゼロへ! STOP! 住宅火災

住宅火災死者発生原因ワースト3 たばこ・ストーブ・こんろで約5割!

平成26年中の東京消防庁管内における住宅火災による死者のうち65歳以上の高齢者の割合は8割以上で、年々増えていきます。高齢者は、火災に気づくのが遅れたり、避難に時間がかかることが多く、被害が大きくなる可能性があります。日頃から火災予防に努めましょう。

1位 たばこ

たばこの消し忘れなどで寝具に着火し、一酸化炭素など有害ガス中毒で命を落とすケースがあります。

- 出火防止ポイント**
- 寝たばこは絶対しない
 - 飲酒→喫煙→うたた寝に注意
 - 吸い殻を灰皿にためない
 - 吸い殻は水で完全に消してから捨てる
 - 火種を落とさないように決まった場所で喫煙する
 - 寝具を防火製品にする

2位 ストーブ

ストーブに寝具等が接して起こる火災が多発しています。ストーブ火災で亡くなる方の多くは高齢者です。

- 出火防止ポイント**
- 周囲に燃えやすいものを置かない
 - 外出時、就寝時は必ず消す
 - 洗濯物を乾かすために使用しない
 - 必ず消してから給油する
 - 電気ストーブも石油ストーブ等と同様に注意して使用する

3位 こんろ

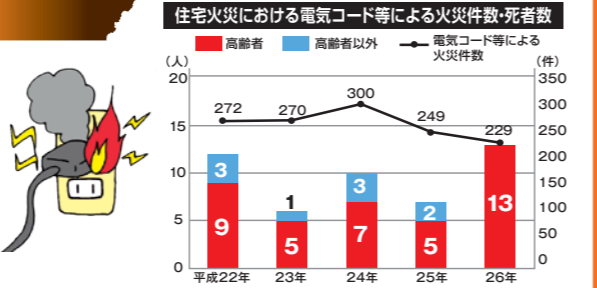
こんろ火災の大半は、使用中に「放置する・忘れる」が占め、着衣着火も多発しています。

- 出火防止ポイント**
- 調理中にその場を離れない
 - 周囲に燃えやすいものを置かない
 - 安全機能(Siセンサー)付きコンロを使用する
 - 火が鍋底からはみ出ないように調節する
 - 防火製品のエプロンやアームカバーを使用する

電気コード等による火災に要注意!

電気コード等による火災の死者数が増えています

平成26年中の、住宅における電気コードのショートやトラッキング等が原因の火災による死者は、過去5年間で最も多く、13人発生し、そのすべてが高齢者でした。コンセント部分のホコリ(トラッキング現象を引き起こす原因)や電気コードの折れ曲がり、束ねての使用は火災の原因となり非常に危険です。暮らしの中でよく使う電気製品は、正しく使うように心がけましょう。



火災事例:01
電気コードがショートして発火!
居室の床面に置いていた延長コードが、書類ラックのキャスターに長年踏みつけられたため、被覆が損傷してショートして出火した。



火災事例:02
金属の接触部が過熱して発火!
壁付コンセントに接続されているテーブルタップの差し刃が、完全に差込まれていない状態で電気を使用していたため、接触部が過熱し出火した。

- 出火防止ポイント**
- 電気コードの上にものをのせない。
 - 電気コードは束ねた状態で使用しない。
 - テーブルタップは、決められた容量以上で使用しない。
 - 電気機器を動かす時には電気コードを傷つけないよう注意する。
 - 古い電気コード等は交換し、自分では改造しない。
 - 電源プラグや電気コードの清掃・点検をする。

エアゾール缶等の火災に要注意!

簡易型ガスこんろや暖房器具を使用する機会が増える冬季に、エアゾール缶等の火災が多く発生しています

エアゾール缶等に係る火災は、平成22年～平成26年までの5年間で699件発生しており、平成26年では121件発生しています。121件中29件(24.0%)が、中身を使い切らないで廃棄のために穴をあけたことにより出火しています。

エアゾール缶等とは
可燃性ガスを噴射剤とした整髪剤、消臭剤、パーツクリーナー等のエアゾール缶と簡易型ガスこんろの燃料ボンベを合わせています。



火災事例:01
廃棄のため、台所の流し台で中身が残っているエアゾール缶に穴をあけたところ、使用していた湯沸器の炎が、エアゾール缶から噴出した可燃性ガスに引火し出火した。



火災事例:02
簡易型ガスこんろを2台並べて、鉄板を置いて使用したため、燃料ボンベが過熱されて破裂し出火した。



火災事例:03
簡易型ガスこんろに燃料ボンベを正しく装着しなかったため、漏れたガスに引火し出火した。

- 出火防止ポイント**
- エアゾール缶等はガステーブルや暖房器具の上やそばなど、高温となる場所には置かない。
 - エアゾール缶等を廃棄する場合は、必ず中身を使い切り、各市区町村が指定する廃棄方法に従って捨てる。
 - 簡易型ガスこんろに燃料ボンベを取り付ける際は、取扱説明書をよく読み、燃料ボンベ容器ガイドの切り込み部分を本体容器受けガイドの突起部分に正しく合わせて取り付ける。

ご存知ですか? 防災物品と防災製品

高層マンションでは
防災物品の使用が義務づけられています。
高さが31mを超える高層マンションでは、火災予防のため、居住している階数に関係なく、防災物品(防災性能のあるカーテン、じゅうたんなど)の使用が消防法で義務づけられています。



火災による死者を減らすため、防災物品や防災製品を使いましょう

防災製品の使用を推奨しています。
防災製品(防災性能のある寝具類やエプロンなど)は、火災の被害軽減に、大変有効です。

